

桃三 校内研究便り

令和元年7月19日
桃井第三小学校 研究部

昨年度に引き続き、今年度も体育科の研究を進めています。体育科における授業改善、体育的活動の充実や食育、保健とのかかわりを含め、健康教育を推進していきたいと考えています。また、ICTを活用した学習や研究も継続していきます。

＜研究主題＞

「かしこい体 たくましい心」を育む指導法の工夫

☆研究内容☆

「運動遊び」とは何かを考える

○「かしこい体」とは「考えて運動に取り組める子」

(知識及び技能、思考力、判断力、表現力等)

低学年：あれこれ試しながらいろいろな動きができる子。

中学年：得た知識を活用し、運動する子。

運動の完成形をイメージして取り組む子。

高学年：試行錯誤しながら様々な運動に取り組み、自分の思い通りに体を動かせる子。

できた動きやできない動きの理由を考える子。

○「たくましい心」とは「粘り強く生活や運動に取り組める子」

(学びに向かう力、人間性等)

低学年：明るく楽しくすすんで運動遊びに取り組む子。

自分を知り、変化や違いを受け入れられる子。

中学年：どんなことにも前向きに取り組むことができる子。

仲間と励まし合って運動をしたり、用具の準備や片付けを友達と一緒にしたりする子。

高学年：課題の達成に向かって最後までやり遂げる子。

どのようにしたら体力や技能が高まるか理解する子。

昨年度までの研究から、児童一人一人の思いや願いに寄り添う、発達の段階に応じた指導を行うことによって、主体的・対話的な学びが生じ、児童一人一人の学びの質を高めていくことができるのではないかと考えました。

そこで、今年度はどの児童にとっても楽しさを味わうことができる「運動遊び」に焦点を絞り、発達の段階に応じた体の発達について考えていきます。

1学期の研究授業は、ICT活用に関わる授業（国語）を1回、体育科の授業を1回行いました。

①6月10日(月) 6年2組 国語科

「私と本～森へ～」

指導者：大山 努 主任教諭

読書に親しむことで、自分の考えを広げていくことをねらいとしました。世界の少数民族の暮らし、野生動物の生態など、児童にはあまり馴染みのないと思われる内容をあえて取り上げることで、児童の考えを広げることができました。



一人1台のタブレット端末、意見を共有したり、まとめて発表したりするための授業支援ソフト等を活用し、読書→意見交換→作品の魅力をまとめる→プレゼンテーションという一連の学習を、短い時間で完結することができました。

司書教諭の支援を受け、星野道夫や関野吉晴の作品を中心に、6年生の実態に応じた良書を選び出すことができました。遠いアラスカで暮らす人々の生活、国籍をもたない海洋民族の暮らしなど、6年生だからこそ深く理解できる内容で、児童の考え方や視野を大きく広げることができました。

①6月14日(金) 2年1組 体育科

「多様な動きをつくる運動遊び」

指導者：菊地 由記 主任教諭

幼保小連携教育の一環として、小学校低学年における運動遊びの在り方を提案する授業でした。当時は区内の幼稚園、保育園、子供園、他の小学校の教員が集まり、授業を参観しました。たくさんの参観者の前でも、児童はとても生き生きと、楽しそうに授業を受けることができました。

今回の授業では、運動遊びのイメージが膨らむように、単元を「うちゅうであそぼう！」とし、すべての活動を宇宙という世界に関連付けて行いました。準備運動は教師の宇宙アナウンスから始まり、児童も声を出し、「いつでも、どこでも、誰とでも」を合言葉に、心と体を解放していました。

「力試しの運動遊び」も、友達と関わり合いながらテンポよく進められました。「用具を操作する運動遊び」では、なわ、缶ぽっくり、輪、ボールなどからやってみたい遊びを自分で選択し、いろいろな楽しみ方をしている児童の姿が見られました。

このような内発的動機付けに寄り添った遊びは、結果として様々な動きを身に付けていくことにつながります。

